

平成29年度 事業報告

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会は、設立以来、都市緑化、公園緑地及び自然環境等に関する事業を通して、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりを推進し、健全な地域社会の形成と生活文化・福祉の向上に寄与することに努めてきました。

公益財団法人の5年目となる平成29年度は、都市緑化の推進、公園緑地や水辺環境等のフィールドの良好な管理と利活用等を通じ、あらためて不特定多数の方々に利益を還元するという使命と責任を意識し、公益性の高い事業の執行と透明性の確保、時代の変化に的確に対応した事業展開に留意してきました。

指定管理者の更新を迎えた大通公園など13公募区の公園においては、それぞれの公園の特性や求められる役割等を再検討し、これまで蓄積してきたノウハウをベースに一層の魅力を発揮する事業計画を提案した結果、すべての公園において再選定されました。

公1事業では、札幌市都市緑化基金の運用益活用等による民有地緑化と緑化普及啓発事業のほか、ガーデニングボランティアの養成・ネットワーク化の推進を図ったほか、基金事業への市民の幅広いご理解・ご協力をいただけるよう、募金箱の新たな設置場所の拡充に努めました。

公2事業では、札幌国際芸術祭2017のメイン会場の一つとなったモエレ沼公園において、関連イベント・展示により多数の来園者をお迎えしたほか、再整備の進む月寒公園ではパークライフセンターが新規オープンし、公園の利活用における中核機能の充実、及び周知に努めました。また、温室等を改修した百合が原公園緑のセンターでは、リニューアル後に多数の利用者を迎えるなど、各公園施設で多くの皆さまに利用いただきました。

都市公園等の管理全体では、地域住民の活動拠点としての活用や市民協議会との連携など市民参加・協働を進め、利用者の満足度と公園施設の魅力向上に留意してきました。各公園等では安全・公平・公正を基本として、施設の特性を生かした展示会、観察会、講習会、コンサート等の開催のほか、プレーパークの実施・支援等により子どもたちの自由な遊びをサポートしました。また、大学・研究機関等と連携し、北国札幌の気候・特性に合った植物管理や生物多様性の保全、普及啓発に取り組みました。緑化植物園では緑の相談を実施し、全国屈指の相談数に対応して、園芸知識・技術の向上、緑化の普及啓発に努めました。公園内運動施設では、安全で快適な施設の提供とともに、初心者教室や健康運動教室、新規事業としてサッカーのクラブ・教室の開講など、公園を活用した市民の健康増進、競技力の向上、スポーツ振興などを通して、地域コミュニティの活性化と公園の利用促進を図りました。

国営滝野すずらん丘陵公園については、運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。

収益事業については、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、自動販売機設置業者のプロポーザル選定の試行のほか、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品構成など、お客様サービスの向上に留意しました。

法人運営全体としては、組織横断的取組の継続と応援体制等の強化、人材育成に努め、コンプライアンスの徹底、安全管理体制の充実、安定的事業展開と将来を見据えた組織体制、財政面での経営改善推進などにより、経営基盤及び内部管理の強化に努めました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

平成 30 年 3 月 31 日現在

区分		昭和59年度～ 平成28年度	平成29年度	累計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		444,719,106	1,224,422	445,943,528
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	157,544,162	1,224,422	158,768,584
協会への寄付金		28,139,899	400,152	28,540,051
	個人	1,397,934	0	1,397,934
	募金箱	3,794,360	181,332	3,975,692
	企業・団体	12,667,605	218,820	12,886,425
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総計		475,859,005	1,624,574	477,483,579

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木等の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラックの苗木 227 本を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市民に 8 件 54 株のナツヅタの苗を補助した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) さっぽろ緑と花のフォトコンテスト

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地における花や緑、自然とのふれあい等をテーマとしたフォトコンテストを実施した。

応募総数 139 人 495 点 四つ切り部門 61 人 172 点
サービスサイズ部門 78 人 323 点

表彰式 平成 29 年 10 月 25 日 札幌すみれホテル

入賞作品の展示 期間: 平成 30 年 3 月 16 日～3 月 21 日
場所: 富士フィルムフォトサロン札幌

(2) 緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象とした絵画コンクールを実施した。

参加学校数 25 校 応募総数 517 点

表彰式 平成 29 年 10 月 14 日 ホテルノースシティ

入賞作品の展示 期間: 平成 29 年 10 月 13 日～10 月 17 日
場所: 札幌地下街オーロラコーナー

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や楽しさ、花と緑にふれあう環境づくり、また園芸や緑地管理等に関係する高度な知識や技術等について解説する冊子を作成・配布した。

・ すぐすぐみどりNo.24 「家庭菜園にチャレンジ！」

人気の高かった当該ナンバーを増刷し再配付を行った。

・ すぐすぐみどり技術レポートNo.2 「芝生管理に関する調査・研究」

当協会と外部有識者で構成した芝生研究会における、芝生管理に関する調査・研究をまとめた。

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターを養成するため、ガーデニング講座を開講した。(実習 10 回・講義 10 回)

実習受講者 20 人(全 10 回継続)、講義受講者延べ 271 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワー・ポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワー・ポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。貸出数 6 団体 160 基(花苗 800 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※ 助成財源:一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業受託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持っている人へ相互交流ができるイベントの開催や活動に役立つ情報を提供するため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を運営し「花と緑のボランティア団体」「さっぽろタウンガーデナー」への登録促進と活動等を支援した。

① 登録数 … 団体 32 団体、個人 307 人（平成 30 年 3 月 31 日現在）

② 情報の発信

- ・「花と緑のネットワーク通信」の発行 … 4 回(4 月、7 月、10 月、1 月発行)
- ・ホームページ更新 … 98 回
- ・広告掲載 … フリーぺーぺー「オントナ」5 回、生活情報誌「さっぽろ 10 区(トーグ)」1 回、園芸雑誌「MyLoFE」1 回

③ まちづくり体験実習等の実施

花と緑のまちづくりへの参加を促すため、市民による花壇づくりを実施した。

- ・市役所前コンテナガーデンづくり … 11 回実施、延べ 146 人参加
- ・中島児童会館花壇づくり … 14 回実施、延べ 210 人参加

④ 講習会・茶話会の実施

タウンガーデナーのスキルアップと相互交流を図るため、講習会を実施した。

内 容		参 加 人 数	実践時の一般参加者
1	サポーター養成講座「種まきから苗植えまでを学ぼう・教えよう」(全3回)	延べ44人	19人
2	サポーター養成講座「親子向けワークショップをやってみよう～苔玉づくり～」(全2回)	延べ26人	19組38人
3	講習会・ハンギングで地域を飾ってみよう	20人	
4	講習会・花壇メンテナンスについて学ぼう(全2回)	延べ39人	
5	講習会・公共花壇のデザインをつくってみよう(全2回)	延べ28人	
6	茶話会・春のタネ・苗交換会in豊平公園	27人	
7	茶話会・シチュエーション別写真の撮り方を身につけよう	20人	
8	茶話会・土のはなし	21人	
9	茶話会・秋のタネ・苗交換会in中島公園	30人	
合 計		312人	

⑤ 研修見学会(バスツアー)の実施

タウンガーデナーの知識向上と交流を深めるため、研修見学会を実施した。

- ・研修見学先:あさひかわ北彩都ガーデン、北邦野草園
- ・実施日:平成 29 年 7 月 6 日
- ・参加人数:34 人

⑥ さっぽろ花と緑のネットワークフェスタ 2017 の実施

登録ボランティア団体、タウンガーデナー有志が参加するワークショップと、ガーデナー梅木あゆみ氏による寄せ植えのデモンストレーション&トークを実施した。

- ・実施日:平成 29 年 11 月 18 日
- ・会場:札幌エルプラザ 3 階ホール
- ・参加人数:150 人

⑦ 広報イベント「さっぽろ花と緑のネットワークフェア」の実施

登録ボランティア団体等のパネル展示とタウンガーデナー有志(応援スタッフ)による体験コーナー、メッセージコーナーを設け、PRを行った。

- ・実施日:平成 30 年 3 月 7 日
- ・場所:札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)
- ・参加人数:体験コーナー175 人、メッセージコーナー152 人

⑧ 技術指導講師派遣の実施

登録ボランティア団体が開催する講習会等へ技術指導講師を派遣した。

5 回実施、延べ 102 人参加。

公2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの課題について地域全体の問題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

特に、酪農学園大学と締結している「連携と協力に関する協定」に基づき、公園内の外来生物問題に関する調査等を継続して実施した。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展・報告会の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展・報告会を開催した。これら長年の活動に対して、これまで外部から多数の賞を受けており、今年度も新たな賞を受けた。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、報告を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 緑及び魚類等水生生物の調査・研究

都市公園における芝生の土壤管理に関する技術開発研究として、刈草の処理が芝生の窒素循環に与える影響について、百合が原公園など複数の公園で調査を実施した。

また、札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況の把握と水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、調査結果を公表した。

このほか、さけ科学館が事務局を務める「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」では、サケの産卵環境改善の取組みで大きな成果が上がったほか、新たにサーモンフットパスを開催するなど、引き続き市民参加による豊平川の野生サケ保全活動に取り組んだ。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸・緑化情報などについて、リーフレットやチラシ、ポスター、ホームページ、札幌市広報誌、マスメディア等への情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2017」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して情報発信の効果を高め、誘客につなげた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AED の配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

このほか、園内でキツネの姿が見られる平岡公園において、利用者の安全な利用を確保するため、北海道立衛生研究所等の指導のもと、駆虫薬入りエサの園内散布を開始し、エキノコックス症のリスク低減に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係諸団体等と連携して実施した。

また、公園施設の利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティを活性化するため、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケートやパークモニターの実施等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用、生物多样性保全など、環境に配慮した取組に努めた。特に公園緑地の維持管理において、発生した剪定枝や刈草等をチップ化・堆肥化したほか、各種工作教室等の素材として再利用するなどした。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントや身近な野生動物に関する勉強会等の環境教育プログラムを企画・実施した。このほか、札幌市生物多様性活動拠点施設に登録している 4 施設では、連携事業である「いきものつながりケイズラリー」に参加協力したほか、生物多様性に関する展示やイベント、情報発信を行った。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を企画・開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園で協力した。

また、札幌国際芸術祭 2017 のメイン会場の一つとなったモエレ沼公園では、オープニング・クロージングイベントの開催のほか、期間中の作品展示により、多くの来場者を迎えた。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。また、外部からの要請に応えて、花や緑、生物、自然等に関する講義や講習等に職員を講師として派遣した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパークや昔遊び等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、適正な環境整備を行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキーなどの講習会や、子ども向けのかけっこ教室、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、子どもの外遊びにつながる取組として、竹馬、ソリの無料貸出のほか、イベント時に昔遊びを紹介するなど、外遊びの推進を図った。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流と競技レベル向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、(一社)A-Bank 北海道との連携事業として、小学生を対象とした陸上クラブに加えて、新たに厚別公園ではサッカークラブを設立し、農試公園ではサッカースクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民との協働を推進し、まちなかのみどりのオアシスとしての質の向上と歴史的・文化的財産の共有のため、イベントやガイドなどによる情報発信に努めた。また、季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理によるまちなかのみどりの演出とともに、近隣の商店街・地域住民と連携したにぎわいづくりを図り、やすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

(1)市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」を運営し、年間約 9,300 人の利用があった。札幌の観光案内や公園の魅力など様々な情報をタイムリーに提供することで、利用者の満足度とリピート率の向上を目指した。

ボランティアによる「公園ガイド」は、公園の歴史・樹木や画像を解説し、札幌や公園の文化的財産を共有することにより、市民の愛着心の醸成と観光客へのおもてなしに努めた。また冬期間、観光客等で賑わうさっぽろ雪まつりでもガイドを行い、四季を通じて公園と札幌の魅力の発信に努めた。

(2)体験型利用の促進

大通公園は、大型イベント会場として賑わうほか、竹馬や自然素材を使ったクラフト、そり遊び、冬季スポーツ体験(雪と遊ぼう、ウインタースポーツフェスティバル)などを企画・実施し、体験型による利用促進に努めた。また大型イベントによる賑わいと対照的なイベント「プレミアムウィークエンド」を札幌市と共に開催した。設置物を極力無くし、公園の魅力的な空間を楽しむことを目的として、写真撮影会、分野別ガイド、ワークショップ型イベントを行った。創成川公園でも、七夕飾りやハロウィンイベントでのランタン作り、スノーキャンドルづくりなどの体験型イベントを実施し、市民だけではなく、「コト消費」を求める海外観光客等の参加につなげた。

■自主事業による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①どんぐりクラフト	3 日 179 人	①公園まるわかりガイドツアー	13 日 244 人
②竹馬無料貸出	194 日 333 人	②ライラックインフォメーション	1 日 20 人
③4公園ワンデーマーチ(共通)	1 日 21 人	③ライラックガイドツアー	2 日 16 人
④プレミアムウィークエンド	2 日 70 人	④ランチ&カフェ	1 日 30 人
⑤バラフェスタ	2 日 200 人	⑤4公園ワンデーマーチ(共通)	1 日 21 人
⑥くじらの森遊びの会 七夕会	1 日 100 人	⑥こども彫刻清掃ボランティア	2 日 6 人
⑦子どもバラボランティア体験	14 日 18 人	⑦七夕まつり	1 日 50 人
⑧秋の大通公園ツアー	1 日 9 人	⑧ハロウィン	1 日 200 人
⑨くじらの森遊びの会 忍者修行	1 日 32 人	⑨アートフェスタ	1 日 30 人
⑩雪と遊ぼう in 大通公園	1 日 1,129 人	⑩まち灯りスノーキャンドルづくり	2 日 300 人
⑪そり山(そり無料貸出)	14 日 40 人		

2 市民参加・協働等

登録ボランティア及び企業・団体などのボランティアに対して、活動に必要な用具の貸出や資料の提供・スキルアップの指導など適切な活動支援を行い、年間を通じて市民協働の推進に努めた。また、創成川公園・狸二条広場の活用について、狸二条広場運営協議会と連携を図り、イベントの共同開催、公園の防犯パトロールなどを実施した。

近隣地域との連携の取組として、今年度で 7 回目となる「大通公園・創成川公園利活用協議会」を開催した。近隣の町内会、学校、施設等に公園運営への理解を深めていただき、指定管理者と地域の相互協力体制、情報交換などが話し合われた。また、当協議会により、地域住民によるイベント「大通・西あたり」の実行委員会に指定管理者が加わることができ、地域との協力・連携が図られた。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出し、ベンチ塗装プロジェクトのボランティアへの人的支援など、それぞれの活動内容に合わせて適切なサポートを行った。

公園登録ボランティアには、自発的な活動を重視しながら、専門家の技術指導によるスキルアップや必要物品の支給、適宜アドバイス等を行ったほか、ユニフォームを貸与して活動の連帯感やモチベーションの向上を図った。

(2) 教育機関との協働

近隣小学校との連携として、児童による花壇への花苗の植込みのほか、植物管理やボランティアの体験の受入れ、児童を対象とした公園イベントのチラシ配布などにより、子どもの公園利用や参加・協働を促進し、公園への愛着心の醸成を図った。

(3) 近隣施設との連携

札幌市との共催事業であるプレミアムウイークエンドでは、さっぽろテレビ塔及び札幌市資料館と協力体制を取り、連携して開催した。また、その他事業においても協力・連携し、円滑なボランティア活動やイベントチラシ配布など、相互に市民活動と広報効果を高めた。

■NPO・ボランティア団体との連携による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①ベンチ塗装プロジェクト	2日 120人	①サンキューフェスティバル(共催)	-
②大通・西あたり(実行委員会参加)	2日 -	②キャンドルストリーム(後援)	-
③フェアトレードフェスタ 2017 in さっぽろ	1日 500人		
④大通サードプレイス(共催)	4日 -		
⑤雪まつりガイド(ボランティア)	5日 94人		
⑥ウィンタースポーツフェスティバル	1日 12,854人		

■ボランティア活動一覧

	団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
大通公園	①花壇維持管理ボランティア	60日 延べ510人	花壇の維持管理
	②花壇ボランティア(NPO シーズネット)	18日 延べ127人	花壇の維持管理
	③バラ管理ボランティア	42日 延べ650人	バラの管理
	④ガイドボランティア	181日 延べ739人	おもてなしガイドとして公園を案内
	⑤花壇ボランティア	3日 延べ138人	花苗の植え込み(春・夏・秋)
	⑥資生館・中央小学校(3・4年生)	2日 延べ270人	花苗の植え込み(夏花壇)
創成川公園	①お助け隊	39日 延べ298人	清掃、除草、イベント運営など
	②植物ボランティア	35日 延べ264人	ライラック等の植物管理
	③花くらぶ	18日 延べ79人	コンテナ花壇の管理

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

市街地に隣接しながらも水や緑が豊かで野鳥などの動物が見られ、札幌の歴史的建造物や各施設があり、文化的イベントが今なお開催されている公園の特性を活用し、地域団体や企業、関連団体、教育機関との協力・連携を図りながら、季節ごとの魅力を取り入れた様々な利用者サービスの企画を実施し、利用促進に努めた。

(1)市民にわかりやすく楽しい情報提供

当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用し、四季の景観の魅力などタイムリーな見どころ情報の発信により公園をPRしたほか、イベント開催で新たな公園利用者の誘致と、リピーターの再訪を促した。また、園内樹木マップを作成し、園内散策のアイテムとして市民に提供して好評を得られた。

(2)「都心のオアシス」として公園の魅力アップ

地域の団体や市民などが保有する、公園の歴史等に関わる情報や知識をイベントやアンケート、協議会で聞き取り、公園の特性や資源(みどり)と繋ぎ合わせることにより、魅力アップの取組みの一環に取り込んだ。

(3)歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」、「札幌まつり」、「歳の市」など、これまで中島公園を会場として長年親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため、多方面からの協力・支援体制を整え、公園と催事が相互に価値を高めながら札幌の文化・歴史を彩ってきた無形資産の継承に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加人数	イベント名	参加人数
①なかじま桜まつり	200人	⑦見どころ探訪ツアー	24人
②4公園ワンデーマーチ	21人	⑧野鳥観察会	15人
③ノルディックウォーキング体験会	11人	⑨冬のまちにスノーキャンドルをともそう！	100人
④青空コンサート	45人	⑩札幌川見	3,000人
⑤愛犬といっしょの散歩講座	15人	⑪豊平川緑地パークゴルフ交流大会	36人
⑥キャンドルナイト	60人	⑫ラストコールパークゴルフ大会	98人

2 市民協働・地域との連携

公園内の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関など地域と連携した「中島公園地域コミュニティ推進協議会」を年3回開催し、相互の情報交換や協働イベントを開催した。中島児童会館主催の「かもくま祭り」では、他の参加団体と共に地域振興に努めた。豊平川緑地では、パークゴルフ場2施設の運営を中央区パークゴルフ協会に委託し、利用者目線でのサービス向上に努めた。このほかフランティアや清掃ボランティアなど、各協力団体の活動支援により、相乗効果として公園の管理運営の向上にもつながるよう、連携を進めた。

(1)ボランティア活動の支援

公園内花壇や花木の管理を市民と協働で行い、園内花壇の裸地化した箇所や、雑草の繁茂が目立つ箇所を再生し、フローラルアップを図った。

(2)近隣教育機関との連携

近隣小中学校の総合学習や職業体験を積極的に受け入れ、清掃や除草作業などの公園維持作業を通して、身近にある緑や公園について知る機会を設けた。

(3)市民活動・地域連携による相互の充実

公園内で活動する市民団体や企業等の活動成果を紹介することで、内容の拡充や新規団体の参画、活動展開の促進を図った。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
フローレス3Bの会	27日 延べ125人	旧百花園の花壇・バラ管理等
中島Kidsガーデン	19日 延べ480人	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
山鼻小学校社会実習	1日 約90人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
中島中学校にて講演会	1日 職員1名	公園管理の仕事や公園の持つ役割について
中島中学校職場体験・社会実習	5日 延べ475人	清掃、ロウソク加工、冬期イベント「ゆきあかり」補助
静修高校社会実習	3日 延べ33人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
第11回かもくま祭	2日 延べ678人	児童会館との協働子どもイベント
鴨々川ノスタルジア	2日 延べ245人	鴨々川近隣の団体による懐古イベント
青空画廊の開催	展示16日 計50点	中島中学校生徒の描いた公園風景画を展示
鴨々川いきもの観察会(札幌市共催)	2日 延べ40人	川の生物や自然に親しむ子どもイベント
第12回ゆきあかりin中島公園	3日 延べ4,130人	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場(南7条コース・南大橋コース)では、融雪後の早期開放に努め、定期的な草刈、施肥、灌水等の作業、雨天時のコース内排水作業を行うことでコースコンディションを維持し、南22条野球場においても定期的な草刈作業とグラウンド整備を行い、快適な施設利用に努め、収入増加に努めた。

利用料金収入合計 10,724,335円

(豊平川緑地パークゴルフ場南7条コース・南大橋コース・南22条野球場)

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」を継続的に開催し、好評を得たほか、新たな講習会として「あけびのかごづくり」や「苔玉づくり」を開催し、好評を得ることができた。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への关心・意識の啓発につなげていくことを目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成27年に発足し、市民参加による観察会や勉強会、調査を継続的に実施した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①円山のリス調査	1人	⑧円山公園こども夏まつり2017	1,204人
②ちよこっとプレーパーク(20回)	1,416人	⑨あけびのかごづくり	36人
③円山・大通・創成川・中島公園 4公園ワンデーマーチ(共通)	21人	⑩ナチュラルリースづくり	65人
④まるやま野生動物カフェ(2回)	66人	⑪冬の円山公園にスノーキャン ドルのあかりを灯そう!2018	-
⑤いきものわくわくビギナーズ	28人	⑫スノーマウンテン造成及び チューブそり無料貸出	-
⑥円山公園探訪ツアー	9人	⑬苔玉づくり	39人
⑦コタンペッププロジェクト	366人		

2 市民参加・協働等

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、年間を通じてプレーパークを開催し、子どもたちに遊び場を提供した。このほか、札幌国際芸術祭関連イベントとして「コタンペッププロジェクト」を開催し、ワークショップやディリープログラムを実施し、多数の参加があった。

在来種の保護と外来植物の対策として、外来種除去活動を継続して実施した結果、オオハンゴンソウは神宮下園地や円山下園地ではほとんど見られなくなった。また、ゴボウ・イワミツバについても、北海道自然保護協会と連携して精力的な除去活動を行い、成果を挙げている。

3 利用料金収入

坂下野球場は前年度よりも頻度を高めて芝刈、グラウンド整備を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めた。自由広場は10月に耕耘、転圧、グラウンドマット掛けを実施し、グラウンド状態の改善に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 762,640 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市のフラワーパークとして、ユリを中心とした公園景観の提供に努めた。今年度は緑のセンター温室の改修工事が行われ、6月中旬から翌2月中旬まで休館したため、植物展示会・講習会は例年の約半分の29回の開催となった。リニューアルオープンした温室は、床構造が環境舗装に変更され、車椅子利用者に優しい仕様となった。このほか、職員が見どころを案内する春と秋の公園ツアー、2回のコンサート、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリング、ガイドボランティア対応のお散歩ガイドなどを開催し好評を得た。

■自主事業による展示会・講習会・イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①展示会・講習会	50,153人	⑥百合が原音楽祭	2,000人
②公園ツアー	25人	⑦ミモザコンサート	250人
③プレーパーク	179人	⑧クリーンアップ	12人
④オリエンテーリング	74人	⑨ボランティア説明会	2人
⑤お散歩ガイド	199人	合計	52,894人

2 市民参加・協働等

(1)ボランティア活動の支援

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4つのボランティアグループ、計46名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- ・温室管理ボランティア「ミモザ」 10人
- ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 13人
- ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 5人
- ・公園ガイドボランティア「ガイド」 18人

(2)体験学習、実習等の受け入れ

札幌市内の小中学校、近郊の高校から環境学習や職業体験、インターンシップを受け入れ、公園や植物との関わりを実習等により体験し、緑化事業への魅力発信に努めた。

- ・百合が原小学校オリエンテーリング受け入れ 583人
- ・百合が原小学校3年生総合学習受け入れ 123人
- ・上篠路中学校、北辰中学校の職業体験 13人

3 緑の相談

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週 2 回(木曜、日曜)、緑の相談業務を行った。今年度は 6 月 19 日から改修工事のため休館となり、相談件数は 877 件(前年度 2,556 件)だった。

4 調査研究等

公園管理における調査研究として、北海道大学大学院農学研究院との共同研究で「都市公園の芝生における窒素循環の解明に関する調査」を継続して実施しており、今年度も芝生広場等において調査研究を実施した。

5 利用料金収入

緑のセンターと駅舎の改修工事のため、温室は 6 月 19 日から 2 月 13 日まで休館し、リリートレインは 9 月 24 日で営業を終了した。2 月 14 日の緑のセンタリニューアルオープン後の温室利用人数は、前年同期の 147% となった。

利用料金収入合計 10,222,040 円(緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで進めてきたイサム・ノグチ作品としてのクオリティの維持・向上、魅力ある公園づくりと情報発信力を活かし、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用に向けてさまざまな事業を展開した。(年間入園者数 805,057 人)

(1)市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

1)快適で賑わいある公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

園内で開催される多様な大規模イベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。

特に、今回で 6 回目となる「モエレ沼芸術花火 2017」(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)は、過去最高となる来場者数約 2.4 万人(前年比約 3.7 千人増)を記録し、広域誘客イベントとして定着した。

また、施設等の管理では、作品としてのクオリティを維持しながら、各種イベントへの柔軟な対応・協力をを行い、魅力ある公園づくりに努めた。

2)国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、Facebook や Twitter などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や海外メディアによる動画撮影などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めたほか、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

3)多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。

また、3 年に 1 度開催されている札幌国際芸術祭のメイン会場のひとつとして、展覧会「RE/PLAY/SCAPE」を実施した。印象的な作品の展示に加え、ゲストディレクターの作品が展示されたことなどにより、57 日間の会期中に約 13 万人の来場者が訪れた。写真映えする作品が多く、SNS 等でも多く投稿・拡散されるなど、当公園の PR にも繋がった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①モエレの1年展	7,729人	④モエレのホワイトクリスマス 2017 (コンサート、ワークショップ等)	572人
②札幌国際芸術祭 2017 モエレ沼公園 会場展覧会「RE/PLAY/SCAPE」	122,110人	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りを ともそう！2018	150人
③さと・モエ合同ウォーキング	279人	⑥所蔵品展 イサム・ノグチあかり展	2,830人

(2)他団体と連携した誘客活動

隣接するサッポロさとらんどとの共催によるウォーキングイベント「第4回さと・モエ合同ウォーキング」(参加者279人)を開催し、相互連携による誘客強化を図った。また、市内中心部からの来園を促すため、NPOが運営するサイクルシェアリング事業「ポロクル」のピットとして継続登録を行った。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、NPOやボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会やNPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組みとその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めていただくとともに、出席者から多様な意見を拝聴して意見交換を行った。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	活動日数、一般参加者数 (カッコ内は活動延べ人数)	活動内容
モイレ HIDAMARI	33日、531人(203人)	サクラツアー、ミニ盆栽づくり、木の葉でたたき染め、モエレクラフト、樹林地管理・観察会等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	2日、170人	ふしぎヒコーキワークショップ、モエレ冬のコンサート

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、歩くスキーやスノーシュー、ソリなど、ウィンタースポーツ用品の貸出しを行った。特に、散歩コースは整備距離を延長して、利用者の要望に応えた。

また、今年度で8回目となる「モエレ山爆走そり大会」(主催:札幌市東区スポーツ推進委員会)では、実行委員会の一員として円滑な運営に協力し、モエレ山の雪面を活かした地域連携型イベントとして数多くの参加者と観覧者で賑わった。(参加者77組286人)

4 利用料金収入

テニスコートでは、団体の大会利用に合わせて、フィールドハウスやテニスコートの開閉場時間を柔軟に変更して運営に協力し、施設利用の促進を図った。また、日常管理では、老朽化に伴うコンディションの悪化を防ぎながらこまめな整備を行い、施設利用の快適性を維持した。

ガラスのピラミッドの貸室では、札幌国際芸術祭開催に伴い、長期間にわたる貸室利用があり、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 21,210,240円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的でもある、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を2本の柱に利用促進事業を実施し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組んだ。

(1)公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

1)ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第59回さっぽろライラックまつり」では、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの相談会を実施した。

川下会場では、ライラックの苗木無料配布や市民参加のステージイベントのほか、地域の園児・児童・学生と連携してライラックをモチーフとしたデコレーションを実施し、さらにライラックの展示会、ガイドツアー、クイズラリーなど、札幌市の木であるライラックを身近に感じていただける事業を展開した。また、販売や無料配布したライラックは、狭い場所や鉢植えでも育成しやすい矮性の品種を選ぶなど、工夫を凝らした。(期間中来園者数約4,500人)

また、これまでのライラックの育成や数多くのコレクション、ライラックによる優れた景観づくりと利用促進・普及啓発活動が国際ライラック協会から認められ、アジアで初めての「President's Award」を受賞した。

2)健康増進施設としての活動

スポーツ施設の多い川下公園や北郷公園では、誰もが参加しやすい内容の利用促進事業を実施した。

ノルディックウォーキングの講習会を3回実施したほか、水中健康教室を70回実施するなど、幅広い年齢層の参加に努めた。

また、リピーターの多い川下公園、北郷公園のパークゴルフ場では、自主事業として大会を開催し、多くの参加者が交流を深めた。

3)季節に応じた事業の促進

グリーンシーズンで一番の賑わいを見せる、「さっぽろライラックまつりin川下公園」は2日間とも雨天となり、来園者は約4,500人と伸びなかつたが、本イベントの開催を通じて札幌の市木であるライラックの魅力を広く発信することができた。

また、初めて川下公園での開催となる「白石区ふるさとまつり」を札幌市と共に実施した。まつりの2日目は大雨により途中で中止となつたが、子どもからお年寄りまで幅広く、約16,000人の来園者で賑わつた。

冬季に開催した「ウインターフェスティバル」では、スノーモービルでボートを牽引する「スノーラフティング」が特に好評で、2,500人の参加があった。この好評を受けて、引き続き同月の毎週日曜日に同イベントを実施し、冬季ならではの魅力ある催しを提供できた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	1,398人	⑧白石区ふるさとまつり(共催)	16,000人
②さっぽろライラックまつりin川下公園	4,500人	⑨ALL白石おやじの会大運動会	100人
③ライラックガイドツアー	116人	⑩まつぼっくりアート講座	51人
④ノルディックウォーク講習会	34人	⑪川下公園ウインターフェスティバル	2500人
⑤パークゴルフ大会	97人	⑫スノーキャンドル	50人
⑥愛犬といっしょの公園散歩講座	19人	⑬パークゴルフ大会(北郷公園)	200人
⑦サンデーラフティングボート	130人		

2 市民参加・協働等

(1)市民参加のボランティア活動

ライラックの花がら摘みを「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2)市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として、「白石区でつち奉公」を実施し、5校 24人の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣町内会や教育機関等の関係者の参加により川下公園利活用協議会を開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することをあらためて確認した。

このほか、北東白石地区青少年育成委員会による「雪あそびフェスティバル」においてテントの貸出し、雪山作り、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもたちの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石区まち美化プログラム」に参加し、春と秋の2回、白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

3 ライラックの継続的な品種管理

約240品種に及ぶ川下公園のライラックコレクションについて、現在管理している品種の維持のため、接木による保存のほか、メリクロン(組織培養)栽培に継続して取り組んだ。

また、北海道林業試験場緑化樹センターの協力の下、日本最古とされる貴重なライラックについて、組織培養による保存に取り組んでおり、次年度には植栽を予定している。

秋季には韓国的新丘大学植物園と品種の交換を実施し、新たに20品種のライラックを導入した。
シング

4 利用料金収入

札幌市と協議して屋外施設の開放期間を早め、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 17,120,550円

(川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

今年度は緑のセンター新館での初めての通年営業となり、多くの来館者が訪れた。センターが好立地となつたことで公園の新規利用者も増え、都市緑化植物園として一層良好な管理に努めた。(緑のセンター来館者数125,938人)

(1)市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

開所から39年を経過した緑のセンターでは、古典園芸から流行の植物、また植物を材料にしたクラフトまで、幅広い題材を対象とした展示会を開催した。多くは市内や道内で活動する植物同好会やクラフトサークルの会員の発表の場としても活用しており、市内の園芸文化の普及に重要な役割を果たした。特に新館オーブンに合わせた特別展示会として、共催団体を一堂に紹介する「緑のセンターギャラリー展」を開催し、栽培品や製作品等の展示のほか、各団体の活動の紹介を行った。

また、園芸技術、知識、文化の普及を目的として、計75回の各種園芸教室・自然観察会を開催した。(参加者数1,581人)

- ・展示会(ハーブ、盆栽、きのこ、洋ラン、ギャラリー展等) 31回 205日 入館者 85,137人
- ・園芸教室(家庭菜園、鉢花栽培、冬囲い、病害虫防除、果樹剪定等) 43回 1,078人
- ・自然教室(自然観察会、きのこの見分け方等) 4回 67人
- ・クラフト講習会(アレンジ押し花、あけびクラフト、クリスマスリース、ボタニカルアート等) 25回 282人
- ・コチョウラン植え替えサービス 3回 154人

(2)市民、他施設との共同イベント開催

近隣施設、団体等と共にイベントを開催し、公園を市民コミュニティの場として活用するよう努めた。

- ・寄せ植え講習会(清田区役所と共催)
- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2018

(3)緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、約13,000部を札幌市内の緑のセンターや公園、公共施設に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。北国における植物栽培の手引きとして、ビギナーから愛好家まで幅広く支持された。

2 市民参加・協働等

公園の花壇や緑地、イベントの質の向上と市民による緑化活動の活性化を目的として、ボランティア団体と花壇管理やイベント準備・運営を行った。

- ・豊平公園花とハーブの会 23日 延べ242人 花壇管理、ハーブ展運営、クリスマス展・イベント準備
- ・ガーデングリラの会 3日 延べ19人 イベント(リース展、スノーキャンドル)準備等

3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、休館日を除く毎日、緑の相談を行い、計25,114件の相談に対応した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,175,150円(テニスコート、講義室)

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産として平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1)魅力ある公園づくりと情報発信

1)札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

梅林では、独自の開花予測を公表し、開花後も日々の状況を公式ウェブサイトでリアルタイムに発信したほか、マスメディアへのプレスリリース、取材対応などに力を入れた。(期間中来園者数117,500人)

また、利用希望の多い車いすの貸出を梅林で実施するなど、誰もが花見を楽しめる環境の整備に努めた。

2)市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

園内の多様な自然資源を活用し、市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携により、環境教育の拠点として充実を図り、住宅地に囲まれた公園の自然景観保全にも努めた。

また、近隣小学校をはじめ、大学や幼稚園の環境教育授業の協力・支援を行った。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備考
①公園ツアー	6回	97人	うち1回は酪農大学との共催(カエルツアー)
②ハイケボタル観察会	2回	170人	
③ひらおか自然まるごと探検隊	4回	54人	子どもゆめ基金助成事業イベント
④公園あそびのヒント講座	1回	10人	子どもゆめ基金助成事業イベント
⑤雪のおうちイグルーを作ろう	1回	55人	
⑥平岡公園人工湿地調査報告会	1回	22人	前年度に行った湿地調査の市民向け報告会

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備考
①ながぐつの土ようび	7回	211人	うち1回は参加者なしで中止
②ツリーウォッチング	7回	97人	
③にぎわいフェスタ	2回	103人	夏・冬

■学校等の授業への協力一覧

学校名	回数	参加者数	備考
平岡南小学校(3年生)	2回	230人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋
酪農学園大学	1回	140人	環境調査・公園管理
札幌市立大学	1回	32人	デザイン・公園管理

(2)他団体と連携した活動

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会との共催イベントとして「清田区児童会館13館合同イベント あそベンチャー～あつまれ！青空児童会館in平岡公園」を開催した。(参加者数716人)

また、ウインターライフ推進協議会との共催で、冬期に雪を利用した遊びとして「雪と氷の自然あそび体験～雪のおうちイグルーを作ろう」を開催した。(参加者数15人)。

2 市民協働、地域連携による公園づくり

(1)市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れた。活動の支援のため、ボランティアコーディネーターを配置し、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
平岡どんぐりの森	14人	22日 延べ227人	人工湿地管理・環境イベント等
梅ボランティア	6人	12日 延べ 72人	ウメ管理
パークゴルフボランティア	24人	198日 延べ607人	パークゴルフ場管理

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
清田南公園野球場ボランティア	1人	—	少年野球場の利用調整

(2)平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、ボランティア団体や大学、研究者等と連携して環境イベントや公園管理を行ったほか、話し合いの場として「はらっぱ会議」を開催し、中長期の方向性を見えた保全・管理に継続して取り組んだ。このほか、「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し、近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園の管理運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,966,160 円(平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

自主事業として園芸教室・講習会を開催したほか、ボランティアと協働で開催した「みどり一むこども夏祭り」、「第9回庭園コンサート」は毎年の恒例イベントであり、今年度も市民から好評を得られた。

- ・園芸教室(ツツジ、マツ、オンコ、ブドウなどの剪定等) 29回 454人
- ・クラフト講習会(あけびクラフト) 2回 24人
- ・こども夏祭り(環境サポートアーズ「三次郎の会」と共催) 355人
- ・第9回庭園コンサート(環境サポートアーズ「三次郎の会」と共催) 974人
- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう! 2018 in みどり一む 91人

2 市民参加・協働等

2つのボランティア団体について適宜、活動を支援し、施設の良好な維持と植物の質の高い管理につなげた。また、「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し(参加14人)、近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園の管理運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

- ・環境サポートアーズ「三次郎の会」 45日 延べ342人
- ・「樹木会」 49日 延べ148人

3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、週2回、緑の相談を行い、樹木管理を中心として計976件の相談に対応した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 34,980円(講義室)

農試公園・発寒西陵公園

1 普及啓発・利用促進事業等

四季を通じて健康づくりとスポーツを楽しめる公園として、また、多様な利用者や地域住民にとって魅力ある公園となるよう、既存の施設の活用や魅力アップに努め、様々なイベント・講習会等を企画・開催した。さらには、公園利用に関して情報発信を幅広く行い、利用促進に努めた。

(1)公園施設の活用推進、イベント・体験講習会等の開催

屋内広場アリーナは、通常のスポーツ等の利用のほか、幼稚園・保育園の運動会など、多様な持込イベントに柔軟に対応・実施協力を行った。また、閑散期の利用促進を目的に平成29年4月から開始した新規自主事業「のうしサッカースクール」では、トップアスリートによる高レベルな技術指導のもと、様々な学校・学年の子どもたちがサッカーを通じて交流しながら、基本的な技術の習得や実践練習を行った。

その他、交通コーナーでの交通安全教室、トンカチ広場での木工作ワークショップの開催など、公園の資源を生かした利用促進に努めた。また、親子で楽しめるイベントや体験型講習会を多数開催し、市民が気軽に参加できる体験の場としての公園利用を推進した。

(2)冬期間における公園活用の促進

屋内広場アリーナは、積雪期でも土のグラウンドでスポーツができる施設であり、その効果を最大限に發揮できるよう日常整備を行い、利用促進に努めた。また、屋外の雪上での運動・レクリエーションの普及・利用促進を目的として、歩くスキーコース(2.2km)やスキー・ソリスロープを設置・開放した。さらに、自主事業としてスノーモビルでタイヤチューブを牽引する「わいわいタイヤチューブ」を運行し、利用促進を図った。このほか、多目的広場で開催された「第17回西区民雪合戦大会」(主催:西区、西区スポーツ推進委員会)の運営に協力した。

■自主事業による開催イベント等一覧

イベント名	開催月	参加者数	イベント名	開催月	参加者数
①はじめての自転車教室(2日)	5,6月	22人	㉚パークゴルフ初心者講習会	12月	27人
②自転車教室	5月	15人	㉛クリスマスリースづくり(2日)	12月	27人
③ペットボトルでハンギングプランターづくり	5月	21人	㉜のうしきどりクリスマス	12月	約100人
④かけっこ教室(2日)	5月	55人	㉝しめ縄リースづくり	12月	15人
⑤ハルディックウォーキング講習会(2日)	6,9月	14人	㉞門松づくり	12月	13人
⑥あおぞらヨガ	6月	2人	㉟スキースロープ開放及び児童用ソリ貸出	1~3月	198人 (用具貸出)
⑦忍者になって修行だ!	6月	29人	㉙歩くスキー初心者講習会(2日)	1月	10人
⑧交通安全子供自転車北海道大会	7月	24人	㉚歩くスキーコース設置及び用具貸出	1~3月	532人 (用具貸出)
⑨琴似発寒川さかなウォッキング	7月	20人	㉛わいわいタイヤチューブ	1~3月	1,500人
⑩第8回のうし夏まつり(2日)	7月	約2,500人	㉜はじめてのスキー教室	1月	5人
⑪素焼き鉢で風鈴づくり	8月	21人	㉝新春ワンピースづくり	1月	22人
⑫公開さかな調査	8月	21人	㉞冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう2018	1月	
⑬トンカチ広場でコントゲームを作ろう!	8月	32人	㉟種まき講習会	2月	10人
⑭交通安全高齢者自転車北海道大会	9月	32人	㉙のうしあわせ塾	3月	35人
⑮第10回のうし秋まつり(2日)	9月	約1,700人	㉛苔玉づくり(2日)	3月	58人
⑯秋の星空観望会	10月	48人	㉜ナチュラルリースづくり	3月	16人
⑰サケ観察会(2日)	10,11月	184人	㉝スポーツ用品等の用具貸出 ※冬期貸出(歩くスキー、ソリ)除く	通年	138人 (用具貸出)
⑱ハロウィンリースづくり	10月	23人	㉞のうしサッカースクール	通年	延べ216人
⑲竹行燈づくり(2日)	11月	22人			

(3)札幌市民、近隣住民への情報発信

両公園の公式ウェブサイトを活用し、基本的な利用情報のほか、公園の冬期利用促進につなげる各種アクティビティの情報を新たに動画で配信するなどタイムリーな情報発信に努め、アクセス件数の増加を図った。

また、農試公園の有料施設やイベントの利用促進を図るため、毎月末に、翌月の施設利用情報等を記載した広報紙「農試公園だより(A3両面二つ折り)」を約3,500部作成し、市内各施設及び近隣の町内会等に配布した。

このほか、広報さっぽろ、マスメディアやフリーぺーぺー等に積極的に情報提供し、利用促進に努めた。

2 市民協働による公園管理・利活用の推進

市民参加・協働の推進のため、ボランティア団体の活動を支援した。農試公園では、緑化ボランティア「カボック」が毎週月曜日に屋内の観葉植物や園内花壇の植栽・維持管理、花苗育成などの活動を行った。

また、西区との連携事業として、「八軒まちづくり協議会」に新規加入し、イベント「福まち春のウォーキング」の実施協力、「八軒地区青少年育成協議会」への出席など、防災・防犯、健康づくり等の様々な分野での協力体制の強化を図った。

さらに、教育機関との連携事業として、八軒西小学校3年生による農試公園のフラワープランターへの花植え、チューリップの球根の植え付け、雪像造りを実施し、社会学習の場として公園の利活用を推進した。

3 利用料金収入

農試公園は、西区唯一の運動公園として、快適な施設利用と良好なコンディションの維持に努めた。屋内広場アリーナは、不陸整備を毎月第4月曜日に、アリーナの耕耘を年3回(BC面は年2回)実施するなど、快適な利用環境の維持に努めた。

利用料金収入合計 17,559,910円

(農試公園野球場・硬式テニスコート・軟式テニスコート・屋内広場アリーナ、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稻積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する運動公園である手稲稻積公園は、ていねプールをはじめ、市内最大規模のテニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設があり、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理、事業を行った。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にあるスポーツ施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてノルディックウォーキングやテニスの講習会を、交流の場の創出として子どもや主婦層などを対象としたイベントや講習会を行った。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
6/17	①ノルディックウォーキング講習会	11人
6/18	②愛犬といっしょの公園散歩講座	22人
9/18	③ノルディックウォーキング講習会	雨天中止
9/30	④テニス講習会	8人
10/21	⑤木の実のリース講習会(2回)	22人
10/22	⑥プリザーブドフラワーアレンジ体験教室	10人

2 地域との連携・市民協働事業等

3公園とも周辺に多数の町内会がある住宅地の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行った。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校、町内会等の参加により「手稲稻積公園利活用協議会」を継続して開催し、公園運営への理解を深めてもらい、また各町内会や学校、公共施設等からの意見・要望を傾聴し、管理の参考とした。

また、手稲稻積公園・北発寒公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取り組みとして、同好会団体と協働でコース管理等活動を実施し、利用者の声を直接聞き、管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

近隣の小中学校等の教育機関の「体験」や「学び」の場としての公園利用への積極的な協力のほか、地域のイベントなど、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図った。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稻積安心・安全まちづくり協議会」に今年度から正式加盟し、同団体による地域の防犯や防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、冬期間の通勤通学などでのJRやバスなどの公共交通機関利用者の安全な公園内通行を確保するため、降雪状況に応じて、接続する一部園路の冬期除雪を実施した。

■地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	参加者数
5/17～	いなづみ花クラブ(5回)	児童会館の小学生を対象とした、花壇の手入れを体験し学ぶ活動	46人
6/28	稲積小学校3年生 花苗植込実習	休養広場花壇に花苗を植える体験実習	51人
8/5	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会主催の夏まつりに協力し、体験工作等の催事出店	1,900人
10/20	木工クラフト工作会 (近隣児童会館との共催)	園内で採取した植物材料を使用した木工作の体験	25人
11/16	公園利活用協議会	公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催	16人
6/12～	稲積安心安全まちづくり協議会 (計6回参加)	協議会に加盟し、総会、役員会、講演会、防災訓練、落葉清掃に参加	-

3 利用料金収入

テニスコートでは、競技団体の大会利用に合わせて、休憩所等の開・閉場時間や大会の使用コート、利用時間に柔軟に対応して運営に協力した。また、前年度の9月から改修のため利用を休止していた4面コートがオムニコートとして供用になり、一部手直しやメンテナンスに努め、良好なコンディションを維持した結果、施設利用の促進につなげることができた。

運動施設の日常管理においては、老朽化や使用劣化に伴うグラウンドコンディションの悪化に対処しながら整備を行うなど快適な施設利用に努め、収入を維持した。

利用料金収入合計 9,192,810円(手稲稲積公園硬式テニスコート・野球場、北発寒公園硬式テニスコート・軟式テニスコート・野球場、前田公園硬式テニスコート・野球場)

前田森林公园・星置公園・明日風公園・山口緑地

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公园では、ポプラ並木やカナールをはじめとした景観の維持や、自然環境保全に留意した維持管理を行い、ボランティア団体や教育機関との連携による環境学習やイベントの開催、携帯端末等の情報発信ツールの活用による広報を行った。このほか、山口緑地を含むパークゴルフ場では、地域団体との連携による講習会や交流大会を開催するなど、公園・緑地の利用促進に努めた。

(1)魅力ある公園づくりと情報発信

1)修景施設を生かした賑わいの創設

前田森林公园では、壮大なポプラ並木や青空が映り込む美しいカナール、年間を通して楽しめる花木などの魅力発信に努めたほか、道内最大級の大パーゴラ(藤棚)のフジを適切に管理するとともに、開花に合わせたイベント「ふじまつり」を開催した。29年度の参加者は1,200人で、雨天のため前年より650人減となつたが、花の魅力やコンサートなどを楽しんでいただいた。

2)情報発信・共有ツールの活用や対話による地道な誘致活動

それぞれの公園・緑地に適したイベントや講習会を企画・開催したほか、広報における情報発信・共有ツールとしてTwitterを積極的に活用した。Twitterから情報を得た方は、アンケート回答者の7.9%に上った。

(2)公園の利用促進につながる自主事業

公園の魅力を高め、資源を活用して利用促進を図ることを目的とした各種自主事業を企画・実施した。

■利用促進事業一覧

月 日	利用促進事業	参加者数
5/18,23	①前田森林公園パークゴルフ初心者講習会	56 人
6/3,4	②ふじまつり	1,200 人
6/4	③フライングディスクドッグ大会	60 人
6/10	④パークゴルフ交流大会(前田森林公園)	134 人
7/29	⑤パークゴルフ交流大会(山口緑地東コース)	125 人
9/16	⑥パークゴルフ交流大会(山口緑地西コース)	107 人
11/18	⑦森のクリスマスリースづくり	8 人
12/16,17	⑧ミニ門松づくり講習会	12 人
1/5~3/4	⑨歩くスキーレンタル	1,939 人
1/6、13	⑩クロスカントリースキー初心者講習会	78 人
1/21,27, 2/4,10,18,24	⑪クロスカントリースキー簡単初心者講習会	42 人
1/6~3/4	⑫スノーラフティング(期間中 19 回)	512 人
2/11	⑬スノーラフティング(星置公園)	43 人

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

市民が気軽に親しみをもって公園を活用できるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を生かした活動を支援した。

(1)公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工作が体験できる「トンカチ広場」や自然観察会を開催した。また、地域企業やボランティアの方に、カナールを含めた公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に貢献していただいた。このほか、明日風公園では、花壇管理ボランティアに対して資材等を提供するなど、活動の支援を継続して実施した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など
トンカチ広場 14回(うち1回は雨天中止) 593人 自然観察会 4回 35人
- ・市民ボランティアによるカナール清掃 3回 35人
- ・手稲区特定郵便局 清掃活動(活動場所提供) 120人
- ・明日風公園「フィオーレ」 明日風公園の花壇管理(花の種子等の資材提供)

(2)教育機関の公園フィールドでの活用

近隣の小中学校及び高等支援学校からの実習を受け入れたほか、公園を活用した環境教育に講師等で対応・協力した。

前田森林公園

- ・札幌市立前田北小学校 2学級 58人 1日
- ・札幌市立稻陵中学校 7人 1日
- ・北海道札幌高等養護学校 4人 5日間

星置公園

- ・札幌稻穂高等支援学校 16人 3日間
- ・札幌市立星置東小学校 1時限

(3)その他の団体等との協働

- ・フライングディスクドッグ大会 FDS(競技団体)との連携により開催 約60人
- ・プレーパーク 手稲プレーパークの会による開催に協力 6回 155人
- ・スノーキャンドルイベントへの参加 約100人

3 利用料金収入

平成29年度は、有料施設の老朽化も進む中、最善の整備に努めるとともに、施設利用の積極的な呼びかけを行うなど、収入確保に努めた。

特にパークゴルフ場においては、地域団体と連携して初心者講習会を2回、交流大会を3回開催し、新たな利用層の開拓に取り組んだ。また、良好なコースコンディション維持のため、日頃からきめ細かな管理に努めた結果、収入は前年度を上回った。

利用料金収入合計 25,809,770 円（前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場）

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームのトレーニング器具の更新、冬期の歩くスキーコースの整備等を実施した。また、医務室内に授乳室を新設し、利用者の利便性向上を図った。

(1)各種運動教室の実施

高齢者を対象とした「いきいき健康体操」、小学生を対象とした「キッズバレエ」など、幅広い年齢層が参加できる運動教室を計26講座開催し、健康増進と施設の有効利用に努めた。

(2)厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー(Atsubetsu Athlete Academy)を(一社)A-bank 北海道と連携し、運営した。

また、今年度から元コンサドーレ札幌の芳賀博信、元コンサドーレ札幌でA-bank 北海道代表の曾田雄志を指導員とするサッカークラブを新たに設立・運営した。

(3)スポーツ講習会等の実施

気軽にスポーツにふれあう機会の提供や、運動を始めるきっかけづくりのため、初心者を対象としたスポーツ講習会を実施したほか、「さっぽろスポーツDAY」としてトレーニングルームと競技場の無料開放を行った。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ・厚別スポーツクリニック 246人 | ・歩くスキーレッスン 13人 |
| ・ノルディックウォーキング講習会 5人 | ・さっぽろスポーツDAY 295人 |
| ・トレーニング講習会 29人 | ・投げ縄講習会 82人 |

2 市民参加・協働等

公園周辺の環境整備のため、近隣住民と共に清掃活動を実施した。また、近隣小学生によるプランターの花植え、中学生の職場体験、「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ・厚別フラワーボランティア 17日 延べ76人 | ・ラブアース・クリーンアップ in 北海道 60人 |
| ・上野幌西小学校5年生 プランター花植え 28人 | ・中学生職場体験 4校 15人 |

3 他団体等との協働

(一財)札幌陸上競技協会との協働で、中学生を対象とした陸上競技の強化練習会を実施し、競技技術の向上に寄与した。

また、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加し、広報やイベント実施に協力したほか、共催事業として「厚別公園冬フェスタ」を開催した。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ・札幌中学陸上競技強化練習会 459人参加 | ・厚別公園冬フェスタ 790人来場 |
|-----------------------|-------------------|

4 利用料金収入

利用料金収入合計 21,038,081 円(主競技場、補助競技場、会議室、トレーニングルーム)

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」、「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、四季折々の公園の自然を手作りの展示物等で紹介したほか、最新の園内自然情報を掲示板等により提供し、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに適確に対応した。また、公式ウェブサイトでも、常に最新の自然情報、イベント情報を発信し、自然観察や体験等をはじめとする公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

西岡公園では夏期にヘイケボタルが羽化・繁殖しており、生態と自然環境との関係を学び、繁殖を妨げない観察方法の普及を目的とした観察会を実施した。また、植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説するガイドウォークのほか、カルチャーナイトの企画としての夜間園内観察、園内の生物に関する各種の講座などを開催し、自然や生物への关心と生物多様性保全への理解を深める取組を展開した。このほか、特定外来生物の防除活動としてオオハンゴンソウの駆除を実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、プレーパークを 5 回開催した。西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携して、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。

2 地域との連携・市民協働事業等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では 6 つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、様々なイベントを協働体制で開催した。

9 月には、ボランティア 6 団体の協力により、プレーパークや自然観察会、木工クラフトなど公園の自然を活用したイベント「にしおかピクニック」を開催し、多くの参加者に公園の魅力を提供了。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①予りす工房	82 人	④にしおかピクニック	300 人
②ガイドウォーク	268 人	⑤かんじきウォーク	21 人
③プレーパーク	384 人	⑥スノーキャンドルのあかりを灯そう 2018	150 人

(2)西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う 2 団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施したほか、利用者の意見・要望等を直接聴取することについて取り組んだ。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園では、子どもたちによる 1 年間の調査活動参加者を募集し、多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多い西岡公園のトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、それぞれ調査の実施から成果を広く公開する活動報告展・報告会までを年間プログラムとして設定して活動した。

これらの活動の成果が認められ、これまで様々な賞を受けているが、平成 29 年度は西岡さかな組が「みじん子賞（公益社団法人水環境学会）」を受賞し、西岡公園での活動の一層の PR、公園の魅力の発信、環境保全の啓発等につながった。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
西岡さかな組	17 日、 200 人	水生生物の調査、報告展、報告会
西岡ヤンマ団	17 日、 244 人	トンボの調査、標本作り、報告展、報告会

4 利用料金収入

融雪や天候等の状況に合わせて、有料施設の開放日を早め、また閉鎖日を遅らせたほか、利用状況に合わせた点検、清掃を行うなど、利用促進に努めた。

利用料金収入合計 558,080 円（西岡中央公園テニスコート）

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1)市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

1) 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの方に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。年間入館者数は前年度から 1.3% 増の 60,129 人となった。

2) サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、4 日間で 3,851 人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も、札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)と連携して実施した。サケ学習の指導・協力としては、小学校でサケの卵を稚魚まで飼育するサーモンスクールのほか、校内にふ化飼育施設を持つ東白石小学校に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

9 月には、サケに関する知識や体験をより親しみやすく身近な形で提供することを目的として、子どもたちが楽しく学べる体験プログラム等を多数盛り込んだイベント「さっぽろサケフェスタ 2017」を開催し、2,667 人の来場者で賑わった。

これらの行事・イベントでは、通常の広報手段に加え、専用の広報ポスター、チラシ等を製作・配布し、広く事前 PR に努めた。

このほか、サケが遡上・産卵する札幌市内の河川で観察会を実施し、サケの見つけ方や産卵行動、産卵環境、ホッチャレの役割などについて解説した。

- ・琴似発寒川サケ観察会(2回) 184人
- ・豊平川サーモン・ウォッチング 24人
- ・星置川でサケを見よう 55人

3) その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持つていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①サケたちのエサやり体験(16回)	722人	⑦琴似発寒川さかなウォッチング	13人
②サケのいない時期のサケ教室(7回)	107人	⑧公開さかな調査	21人
③知る・見る、カニさん、ザリガニさん	88人	⑨真駒内川ミニ水族館	50人
④真駒内川をきれいにしよう	6人	⑩わくわく受精体験(4回)	242人
⑤北の沢川さかなウォッチング	19人	⑪サケ採卵実習	34人
⑥星置川さかなウォッチング	22人	⑫わくわく体験サケタッチプール(4回)	400人

(2) 他団体と連携した活動

1) 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体との連携を進め、運営の活性化に努めた。特に多数の参加がある春と秋のイベントについては、地域の自然系活動団体や大学、研究機関、町内会などと連携して開催した。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にも協力することで、相互の活動の発展に努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は31年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行った。

2) 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。このほか、市民フォーラムなど例年の取組のほか、サーモンフットパスの企画・開催や、豊平川産卵環境改善試験において成果が見られるなど、市民協働での活動を進めた。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所の数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてブログや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	626箇所	1,252尾	星置川	48箇所	96尾
琴似発寒川	138箇所	276尾	濁川	2箇所	4尾

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

53 地点で調査を実施し、計 34 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 33 年以上に及ぶ調査の結果は隨時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

(3)大学・研究機関等の調査・研究への協力

大学や研究機関などからの調査や実験への協力、調査記録の提供など、計 30 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先：札幌市（建設局、下水道河川局、円山動物園）、（国研）寒地土木研究所、札幌河川事務所、

（一社）北海道栽培漁業振興公社、標津サーモン科学館、千歳水族館、北海道大学、

城西大学、東京学芸大学、酪農学園大学、東海大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園では、公園利用者の休憩や市民活動の拠点となる施設「パークライフセンター」が 4 月 15 日にオープンした。また、「坂下駐車場」「坂下野球場」「水の遊び場」等の再整備工事が行われた。再整備により新しい施設がオープンすることで、爆発的に公園利用者が増加しており、休日は園内が非常に混雑する状況が続いた。このような状況の中で、利用者の安心安全な公園利用を確保しながら、パークライフセンター内の情報発信や、月寒公園のコンセプトである「パークライフ」の実現に向け、多岐にわたるイベントを開催した。

(1) 地域と連携したイベントの企画

近隣の子ども会と協働で開催した「星空観察会」や、町内会との協働による高齢者の健康づくりを目的とした「秋の月寒公園体験会」を実施した。地域との連携を密にすることで、月寒公園の多様な活用を推進した。

(2) 子どもの自由な遊び・学びの場としての利用促進

子どもたちのがのびのびと遊べる場を地域の大人が作る活動「プレーパーク」を、月寒プレーパークの会との共催で、毎月 1 回開催した。子どもの遊びや公園施設の在り方を考えるワークショップや講演会を開催し、新たな公園の楽しみ方の提案と魅力の再確認につながった。

(3) スポーツや健康づくりの機会の提供

「つきさむパークヨガ」「ノルディック・ウォーク体験会」「パークゴルフ大会つきさっぷ杯」など、公園施設を活用した講習会、大会等を実施した。小学生からシニアまで幅広い世代が参加し、地域のスポーツと健康づくりの場として、公園の活性化につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
① ノルディック・ウォーク体験会	87 人	⑨ プレーパークこれもしつと講座	39 人
② 月寒公園であそぼうかあい（プレーパーク）	401 人	⑩ 公園あそびのヒント講座	27 人
③ つきさむパークヨガ	48 人	⑪ ちびっこあそび隊	44 人
④ クラフト体験	39 人	⑫ イグラーを作ろう！	65 人
⑤ 星空観察会	120 人	⑬ 月さむぼ～歌と絵本と森あそび	60 人
⑥ 野の花を植えよう	15 人	⑭ ラブアース・クリーンアップ	1 人
⑦ プレーパーク安全管理講習会	20 人	⑮ 秋の月寒公園体験会	37 人
⑧ パークゴルフ大会つきさっぷ杯	46 人	⑯ 吉田川公園生き物観察会	15 人

2 市民団体・活動団体との連携、市民協働

(1)月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する経緯の中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共に開催で、四季を通して4つの大規模イベントを開催した。市民協働でイベントを開催することで、オープンな雰囲気づくりと利用者間の交流の場につながった。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容
オープニングイベント	546人	パークリフセンターのオープンを祝い、クラフトや薪割り体験を実施
カルチャーナイト	221人	パークリフセンターを夜間開放し、コンサート等を実施
月寒公園ピクニック	380人	ピザづくり体験、落ち葉かきなど様々な企画を実施
あそドル！	200人	スノーキャンドルづくりや雪あそびを実施

(2)ボランティアとの連携

月寒公園では、除草や花壇の管理を行うボランティアを設立・支援した。吉田川公園では、パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	48日、延べ203人	シバザクラエリアの除草、時計塔花壇・六角花壇の管理
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	180日、延べ890人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	160日、延べ182人	パークゴルフ場の管理運営

3 利用料金収入

利用料金収入合計 6,350,475円

(月寒公園高台野球場・テニスコート・パークゴルフ場、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

みどり豊かな自然環境を最大限に活用し、近隣の住民や教育機関、市民団体との積極的な連携により、タイムリーな公園情報の発信や利用促進、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。

(1)自然情報と観光案内を兼ねた見頃・見どころの発信

札幌市街を一望できる眺望と、藻岩山などの山々と隣接し、豊かな自然環境を有する公園として、四季の自然景観、動植物の情報をタイムリーに収集・発信することで来園者へのサービス向上を図った。特に公式ウェブサイトでは年間173件の情報を発信し、閲覧数は71,843件(前年度比18.5%増)に達した。

(2)環境学習の実施

園内で見られる野鳥を紹介する野鳥観察会をはじめ、自然観察会、クリスマスリース作製体験、ネイチャーカフェなどの環境学習事業を実施した。

(3)生物多様性を保全する活動の推進

子どもたちが生物多様性保全について学び、活動を通して自然への好奇心を育むことを目的として、オオムラサキの保護に関する内容を盛り込んだ自然調査体験プログラムを新規に企画・実施した。毎月、定期的に活動を行うことでリピーターや新規参加者を確保し、公園への愛着心の醸成にもつながった。

■普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①早朝野鳥観察会(18回)	205人	⑥アースオーブンで夏祭り in 旭山ベース	61人
②森のたんけん隊(12回)	266人	⑦ネイチャーカフェ(4回)	68人
③モバイルアースオーブン(3回)	62人	⑧ノルディック・ウォーキング体験講習会(2回)	4人
④定例自然観察会(5回)	31人	⑨クリスマスリース作製体験	18人
⑤カルチャーナイト 2017 In 旭山記念公園	11人	⑩スノーシュー自然観察会(3回)	38人

2 市民参加・協働等

近隣住民や小学校の児童から要望を受けて、市民活動協議会構成団体や動植物の専門家との協働で、子ども向けの環境学習事業を企画・開催した。

このほか、イベントの広報や活動について、近隣町内会に協力を呼びかけるなど、地域との連携に努めた。

加えて、市民活動協議会加入の新規団体及び既存団体との協働とサポートについて、これまでよりも強化して実施・対応した。

■旭山記念公園市民活動協議会との主な協働イベント一覧

イベント名	参加者数
WONDER FOREST IN さっぽろ	100人
秋の星空観察会	43人
森のフェスティバル	95人
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2018	25人
冬のフェスティバル	48人

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総括

- (1)園内の総務・経理事務
- (2)入園料の徴収事務
- (3)植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4)入園者数 年間入園者数 533,793 人
※クマ園内侵入による臨時閉園期間(9月12日～22日)の補正数値含む

2 利用指導及び利用サービス等

- (1)利用促進事業
 - すずらんメール発行 4回／年(総配布部数 828,800 部)
 - イベントチラシ(新聞折込広告) 3回／年(総配布部数 1,244,000 部)
 - 道内外旅行情報誌への広告掲載及び旅行博覧会でのPR活動等
- (2)滝野の森における利用プログラム
 - 開催回数 291回 延べ 13,333 人
- (3)公式ウェブサイトのアクセス件数
3,344,419 件

- (4)ボランティア活動
 - ① フラワーガイドボランティア
 - ・登録人数 34人(延べ687人)
 - ・活動期間 4月22日～10月9日(162日間)
 - ・活動内容 ガーデンツアー、巡回ガイド等
 - ・参加者数 1,973人
 - ② 滝野の森クラブ
 - ・登録人数 46人(延べ1,367人)
 - ・活動期間 4月12日～3月31日(169日間)
 - ・活動内容 ガイドツアー、スノーシューガイド、森の楽校等
 - ・参加者数 2,435人
- (5)主なイベント

① シラネアオイまつり	5月10日～5月21日
② 星空観察会	5月13日～9月23日の間の第2・第4土曜日
③ 冒険険遊び場きのたんの森	5月7日～10月15日の間の第1・第3日曜日
	12月23日、1月7日、1月21日、2月4日
	3月4日、3月18日、3月31日
④ 第7回北海道キャンピングフェア	5月20日・21日
⑤ チューリップ・すずらんフェスタ	5月20日～6月11日
⑥ 札幌南マルシェ&よさこい	6月25日
⑦ 滝野サマーイルミネーション	7月28日～8月15日
⑧ LIGHT UP NIPPON HOKKAIDO in 国営滝野すずらん丘陵公園	8月27日
⑨ スポカル～滝野 de 秋満喫 day	9月30日～10月1日
⑩ 滝野スノーフェスティバル	2月3日・4日
⑪ 第2回ジュニア・ユースインターマラソン	2月12日
⑫ 森フェス～2018 Winter～	2月18日

収1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実を図るため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出し等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稻積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル(スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器)等

(3) 収入金額

68,099,963 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

13,594,282 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稻積公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

20,418,421 円

4 その他

月寒公園で貸しボートの管理運営(管理許可)を行った。

収入金額

1,580,800 円

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評議員会

定時評議員会(平成29年6月29日開催)

議題 報告事項

平成28年度事業報告

決議事項

平成28年度決算承認の件

理事選任の件

監事選任の件

評議員選任の件

理事会

平成29年度第1回理事会(平成29年5月29日開催)

議題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

決議事項

平成28年度事業報告承認の件

平成28年度決算承認の件

改正労働契約法に係る対応方針の件

理事候補者選任の件

監事候補者選任の件

評議員候補者選任の件

定時評議員会の招集及び提出議題の件

平成29年度第2回理事会(平成29年6月29日開催)

議題 決議事項

理事長選定の件

専務理事選定の件

理事長の報酬月額の件

みなし決議(平成29年12月28日付)

給与規則の一部改正の件

平成29年度第3回理事会(平成30年3月26日開催)

議題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

決議事項

平成30年度事業計画書及び収支予算書の承認の件

平成29年度事業報告

平成29年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。